

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会		
事務局 (担当課)		博物館 電話 0 4 2 - 7 5 0 - 8 0 3 0 (直通)		
開催日時		令和 8 年 1 月 1 6 日 (金) 午後 2 時 0 0 分～4 時 0 0 分		
開催場所		博物館 地階 大会議室		
出席者	委 員	1 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	5 人 (並木館長、外 4 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	4 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 会長及び副会長の選出 (2) 相模原市立博物館協議会の概要、活動内容について (3) 相模原市立博物館活動評価書について (4) 常設展示室リニューアルの構想案について		

議 事 の 要 旨

(1) 会長及び副会長の選出

事務局による司会進行のものと、会長及び副会長の選出を行った。

(事務局) 議題 (1) 会長及び副会長の選出についてでございます。

博物館条例第19条の規定により、本協議会の会長及び副会長を委員の皆様で選出していただきたいと存じます。どなたかご意見ございますでしょうか。

(浜田委員) 私からよろしいでしょうか。会長を務めていただいている岩野委員に引き続きお願いできたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(事務局) 浜田委員よりご意見がございましたが、岩野委員いかがでしょうか。

(岩野委員) せっかくのご指名ですので、引き続きまして、引き受けさせていただきますと思ひます。

(事務局) それでは、岩野委員に会長をお願いすることでご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは続きまして、副会長の選出をお願いします。どなたかご意見はございませんでしょうか。

(浜田委員) 私の方でよろしいですか。もしできれば会長からご指名いただくのがいいのかなと思うんですが、経験者でもあります大谷委員を副会長に推薦したいと思ひます。

(事務局) 大谷委員に副会長をお願いすることにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、会長には岩野委員、副会長には大谷委員が選出されました。恐れ入りますが、岩野委員と、大谷委員には、会長席と副会長席の方に移動をお願いいたします。

(2) 相模原市立博物館協議会の概要、活動内容について

事務局より、相模原市立博物館協議会の概要及び活動内容について、説明を行った。

(岩野会長) ありがとうございます。

今日は初めての委員の方もいるということもありまして、協議会の活動の概要、活動の内容について、説明をしていただいたところですけど、なかなか全部、すぐにはここでご理解いただけるかどうか、難しいところがあるかもしれません。

ただいまのご説明について、何か皆様の方からご意見、ご質問等があればお受けしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

(宍戸委員) 始めてで申し訳ないですけど、常設展示室なんですけど、私もちょっと拝見してるんですけども、やっぱりずっと内容は同じなんですか、全然変わってないんですかね。

(事務局) これも細かいお話になってしまうんですけど、基本的には変更はないんですが、ただ、天文展示室に関しては平成23年に大規模なリニューアルをしております。それは宝くじの助成金等の関係で、天文展示室だけは改修するということになって、そこだけ改修をしました。

それから、マイナーチェンジといいますか、部分的な変更というのは、絶えずしてしまして、例えば、代表的なことと言いますと、自然・歴史展示室の真ん中あたりの民俗の展示のところに、お蚕様の信仰、養蚕信仰の展示がございます。それは博物館の民俗系の市民グループの皆さんと学芸員と一緒に展示を作ったということで、そういう市民の皆さんの意見だとか、調査研究の成果を取り入れた展示の変更というのは若干しておりますけれども、大筋では30年間ほぼ変わっていません。

(宍戸委員) 例えば展示だけですか、私がちょっと拝見した時には、ただ見るだけだったんですね、その展示でガイドがついてということが一切なかったんですけど、現在も同じですか。

(事務局) はい。その点はですね、展示コーナーのポイント、ポイントに二次元コードですね、それにカタポケというアプリをインストールしたスマホで読み取ると、その展示のもう少し詳しい解説が出てくるという、ちょっと面倒くさいんですけども。

(宍戸委員) そこはちょっと時代の変化に応じてってということですね。

(事務局) まだ音声ガイド等の導入はしておりません。

(宍戸委員) スマホ持ってないとダメということですね。

(事務局) そうということです。

(宍戸委員) ありがとうございます。

(戸塚委員) 最初に言われたですね、館長の諮問に対する回答と、それから意見ということですが、この議題は、全部諮問になるんですか。そこら辺の何か諮問に対する私達の協議した回答と、それからあと、いろいろの意見、それは分かれているんですか。一緒くたにそれをやっちゃっていいということですか。

(事務局) ご説明させていただきます。諮問は毎回出ておりませんで、ここに答申と書かれているものに関しては、館長からの諮問、つまり、こういうことを協議してくださいという諮問が出てくるんですけども、提言とか、書かれているものに関しては、諮問という形をとっていません。

なぜこういう形にしているかということ、館長からの諮問ということだと

非常にそれに対するしっかりとした答申書というものを作らなきゃいけないので、それよりも、特に活動の評価なんかに関してはもう少し自由なご意見をいただいた方がいいんじゃないか、広く意見をいただいたほうがいいんじゃないかということで、特に諮問という形にはせずに、議題として議論していただくということになります。つまり、今期に関しては諮問が出ておりません。

(岩野会長) この協議会というのは、皆さんから意見を述べていただく機関とするというそういう理解でよろしいですか。戸塚委員よろしいですか。

(宍戸委員) 先ほどの蚕のことをおっしゃてましたけど、その時にその展示をされて、その後で、小学生とか、総合的な学習の時間や何かで、その蚕を特別に見学にみえたり、或いは何か学習にそちらを利用したという、そういうようなことは増えたんでしょうか。

(事務局) 特にですね養蚕に関しては、学校によるんですけれども、小学校3年生か4年生で、総合学習を使ってですね、蚕を飼うということを学習に取り入れている学校が市内でも結構ありまして、そういう学校が博物館に展示見学に来た時に、その部分で、蚕を生き物として飼うという学習をしたんですけれども、それが、実際、郷土の歴史にどう関わっているのかを見るときに、その養蚕信仰は非常に重要な部分なので、そこで展示見학을学芸員の解説付きで展示見学をするということもありますし、又はよくあるのが、当館の場合は日常的に平日、特に午前中デイサービスの方が来館されることが多いんですね。そのデイサービスの方がヘルパーの方に連れられてくると、やっぱり養蚕というのは記憶に、今の70代、80代ぐらいの方は子供の頃にやっていたという記憶が多いので、そこで非常に回想しながら、思い出しながら昔語りをするなんていう、そういう利用をされております。

(宍戸委員) 展示の時には常にその小学校には広報しているってということですか。

(事務局) 特に積極的な広報はしておりません。

(岩野会長) よろしいでしょうか。常設の展示、特に蚕関係、いくつかいろんな使った道具とか展示されているわけですが、それ以外にも、いわゆる今、事務局からお話があったように、生きた蚕を使って実際に子供たちと触れ合う、見てもらう、育ててもらう、そういうようなことの取組とかも、私自身も見てきておりますし、できるだけその展示を使いながら、生きた教育というか、そういうものに取り組んできている、そんな気もして、市の広報に出るんですよね。毎年ね。

(戸塚委員) エントランスに蚕が置いてありますよね。毎年。

(岩野会長) ご質問とか、ご意見ございますでしょうか。特にないようですので、次

の議題に移りたいと思います。

(3) 相模原市立博物館活動評価書について

事務局より、相模原市立博物館活動評価書について、構成、評価の進め方等について説明を行った。

(岩野会長) ありがとうございます。ただいま、事務局の方から、毎年作っている活動評価書になるわけですが、これについての内部構成も含めて、ご説明をいただいたわけですが、皆様からご意見、ご質問ありましたら、お願いしたいと思います。

(戸塚委員) 評価の仕方なんですけど、毎年出てるんですけど、年報ですよ。年報を見て評価をしないといけないということになるんですか。評価書と年報があるんですけど。年報はホームページで見れますが、それに対して評価するのは、別の用紙があって、そこに書いていく、そういう感じなんですか。

(事務局) 有識者評価が記入されていない評価書を年報と合わせて皆様にお配りいたしますので、年報とこちらの主な取組ですとか、市民の意見ですとか、そちらをご覧くださいまして、数値をご記入いただいて、ちょっと意見がある小項目については、意見を記述していただければなと思っております。

(戸塚委員) ホームページを見ていて、年報の出る時期が、遅れたりすることがあるような気がするんですけど、私たちの委員に対しては、その前にちゃんとくるということなんですかね。去年の令和7年のやつは、すごく遅れたような気がしているんですけど、どうなんですか。要するに委員に対しては、ホームページに出る前に渡しますよってことでいいですか。

(事務局) 年報につきましてはホームページへの公開自体は、今年度は秋ぐらいだったかと思いますが、協議会の中において、暫定版という形で、先にお渡しをして、評価には影響が出ないような形でこちらも準備をさせていただきます。

(戸塚委員) 発行日が4月になっているんですが。

(事務局) 形式的には4月に出ている形になっていきますけど、内容的には評価には影響出ないように、暫定版という形になりますが、ホームページに公開する前のものを委員の皆様には、ご提示させていただきます。

(戸塚委員) わかりました。

(岩野会長) 今のご説明ですと、この資料の一番最後のページですかね。令和8年度のスケジュールというところで、7月には、この評価書を作るにあたって、皆さんからも意見を提出してもらおう、そういう時期が夏にあるということ

が読み取れるわけですね、その時に、年報の仮のものがあるという、そういうようなことですね。

(事務局) 皆様に評価をお願いするときには、年報のホームページの公開前で、暫定版になりますが、評価に必要な部分はそろえて皆様に送付ないし、お渡しして、評価いただくようにいたします。

(岩野会長) あと私の方からちょっと私が聞き洩らしたかもしれないんですが、10ページと11ページの、令和5年と令和6年の評価項目と評価、少し6年度が短くなっていますけれども、この辺についての説明はありましたでしょうか。

(事務局) すみません。資料2の10ページ、11ページをご覧ください。10ページにですね、令和5年度の定性評価項目及び評価ということで、11ページの令和6年の定性評価項目及び評価で、項目が減っておりますけれども、まず、令和5年度の方ですね、単年度評価を始めて、これぐらいの項目が必要だろうということで、項目出しをしたんですが、いくつかですね、小項目がですね、分けづらいものを無理やり分けているようなところがあって、同じようなことが2回も3回も出てくるような項目があって、あとですね、項目が多いと皆様に評価していただくのが非常に大変だということもございました。特に、評価が似たようなものが繰り返し出てくるところが一番でして、それをうまくまとめて整理し直して、令和6年度版で、やや短くいたしました。

(岩野会長) いわゆる重複するような項目もあるので整理した。そういうことですね。

私の個人的な意見をちょっと言わせていただきたいのですが、こういう評価書、毎年作成されるわけですが、これができた後の問題をちょっと意見としてですね、それは私が最後、事務局と調整したものを教育委員会で報告され、完成して皆さんは一安心されるんだろうけれども、本来はそこで謳われた、改善しなきゃいけない点をどういうふうにするかっていうことが、やはり次につながる大事な点であろうと私は思っているんですね。そうしたときに、例えば、10ページ、11ページのところを開いているんですけど、3-2a、資料貸し出しによる学習支援とあって、例えばこういう項目が大体3いかないぐらい、2.9とか、2.7とか、こういうふうになるんですね。これは放っておいたら毎年これが同じことが起きるという、そういう懸念を実は正直もっているんですね。

ですから、評価書を作るのはそこで一つ完成を見て、これはわかるんですが、それをどのようにして、次により良い方向にするか、反映させるかっていうことを、博物館の中でですね、ぜひご検討いただけるようなシステムとか、そういうものはどれだけやっているのか、もしやってるんだっ

たらそういう話も聞かせていただきたいし、出来ていないんだとすれば、こういう低い数字をどういうふうにしたらより改善できるのか、プロジェクトなり小委員会なり何か作って検討しない限り、毎年これは同じような意見が有識者から出て、同じような数値で、なかなか前へ進まないのかなという思いも、正直はしてるんですか。これについては、事務局としてはいかがでしょうか。ちょっと厳しいような意見かもしれない。

(事務局) この厳しい数値に限らず、文書でいただいた意見に関しましては、博物館といたしましても、改善するよういろいろと検討を進めております。

3番の資料貸出しの学習支援は、毎年、厳しいご意見ををいただいておりますけれども、いろいろなところ、学校の先生向けに説明をしたりですとか、特に資料貸出しの学習支援に関しては、貸出キットと呼ばれているものですが、ホームページとか、あと貸し出す内容を見直して、新たな資料キットのページを作り直したりですとか、できるだけ目について、より利用しやすいよう見直し等は進めております。

その他の項目に関しても厳しい意見いただいたものに関してはですね、博物館の中でですね、改善できるように取り組んでおります。

(岩野会長) 具体的なビジョンが伝わらないんですけれども、全部が全部、すべてを直せというふうに言ってるわけでも、思っているわけでもなくて、その中で少しでもここについては、次年度予算でこういうものをやれば、例えばキットもこういうものが買えるとか、いろんなやり方がある。やれるところやれないところ、そういうものをまず整理した上で、どこを改善していくかという、こういう前向きな取組、そういうようなものが必要になってくるのではないかと。

でないと毎年同じような数字で同じような意見が出て、それで評価書ができました。これで良しとするのか、それだとすると、全然前に進まないのではないかと。そんな気もちょっとしているところなんですけど。ですから取り組んでいきますということをもっと具体的に何かなるようにしていただけると、せっかく皆さんから、いろいろな有識者として貴重な意見が出ておりますので。

他の項目もね、肯定的な意見はいいと思うんですよ。ネガティブな意見を拾い出して、今年度だったらこの中からどういうものが改善できそうなのか。皆さんで話あってもらう、何かそういうような機会とか、場を持っていたらと、さらに、少しずつ改善されていく、そんな気がしているので、もしまだだったらちょっとそういうことも含めて、ちょっとご検討いただければと。

(事務局) 今の資料の貸出しの学習支援に関係することなんですけれど、例えば、

今度の2月にプラネタリウムで、理科の先生と校長向けに見ていただく機会を設けたりとかしておりますので、そういうときに、こういう貸出しのキットがあるということも、説明させていただいて、できるだけ多くの方々に、活用していただけるようにと考えております。

(岩野会長) できるだけアピールしていただければと思います。

(戸塚委員) 以前の評価書がホームページで見れますから、見ると同じようなことが書いてあるんです。前の年もね、それですね、もう正直に言っちゃうと、しょうがないな、と思うんですよね。大体、自己評価だってみんな、3がついていること多いですよね。館の中で毎日活動してる人たちが、自己評価で3だと、私らの場合、これからどうなるかわからないけど、1月に1回も来ない人間なんですね、年報読んだだけで、この評価のところね、それじゃ4つけられるか、1つけられるかという、それは無理なんですよ、やっぱりみんな3になっちゃうんですよね。

(岩野会長) そこは、委員は10人いるっていうのは、そういうことだと思って、それぞれの考え方で、人によっては1かもしれないし、4かもしれない。やはり多くの意見を反映させることが大切だと思うんです。

(戸塚委員) 多くの意見といっても、ここにいる有識者の人で1を付ける人はいないと思うんです。やっぱり3になっちゃうんじゃないかなあとは思いますが、それはたまたま見に来て、あれは良かったというのが、4付けたり、5付けたりというのがあるかもしれないけど、一般的にこの項目、年報だけ見て、点数つけますからって言ったら、3になっちゃう気がするんですけどね。もうそう言ったら始まらないんですけどね。

(佐藤委員) 気になるところがやっぱり同じで、伸びしろがあるということですから、いい意味で言えば低い点数のところは。去年も委員の方がおっしゃってましたけど、やっぱり現場を見たいっていうこともあったので、現場を博物館に来れば、博物館のことが見れますけど、小学校の授業を見せていただけないかって話も出てたかと思うんですけど、時間があればですけどね。小学校に貸出したキットでどんな授業をしているかっていうことで、例えばその現場を見れば、その良さもわかるでしょうし、もしかしたらもっとこうしたらいいっていうことも出てくるかもしれないので、一つはそういった、伸びしろのあるところは、逆に言うとそういう機会も、我々にご案内いただいて、見れる人はそういう機会を見ていただくっていうのも一つのことかもしれません。

それから教育委員会に報告をしているので、教育委員会の中で何かそういったご意見が出てきたのか、まさに小中学校を所管しているので、そういう中で、ここが課題だということであれば、教育委員会、それから小学

校の先生も、この委員会には入っていらっしゃるんで、中学校はいらっしゃいませんけど、小学校の先生との、先ほどコラボがあると言っていましたけど、現場の意見、それからもしかしたらこれからデジタルがどんどん進んでくるので、この活動の取り組み自体も、貸出しがいいのか、もしくは何か別の形があるのか、それについては、どんな形で、博物館としてその学習支援をしていくのかっていうところも、もしかしたら貸出しキットだけではなくて、違う形のものが求められているかもしれないので、そこは時代の流れと合わせて考えていかなければいけないかもしれないと思ったんですけど、報告をして何かそのあと、ホームページで公表でもいいんですけど、何か教育委員会や、それからホームページを見た市民の方から何かご意見があったら、そういったこともぜひ、協議会でもお話しをいただいて、参考にさせていただければなと思って、我々も会長がおっしゃったように、これやって一安心しているんですけど、これがどう使われて、また次の年より良くしていきたいのでどうしたらいいかっていうことを考えても、参考になるかなと思って、ぜひ、大変かと思いますが、そんなことを紹介していただければいいかなと思います。

(岩野会長) とても貴重なご意見ありがとうございます。今日せっかく小学校の校長先生、島崎委員がいらっしゃってますので、もし何かご意見なり、要望なりあれば、お願いします。

(島崎委員) 先ほど館長からあったように、2月10日に、市内の小学校管理職向けにプラネタリウムの特別観覧会ということで、計画してまして、現在、37名の管理職が、ぜひ、リニューアルしたプラネタリウムを見てみたいということで来ますので、そこでまた、プラネタリウムだけではなくて、貸出しキットとか教材の案内もあるってことと、それから紙ベースの資料もありますので、そんなところで発信していくのと、またその会に参加した方の反応など、機会があれば、ご報告したいと思いますので、ご承知おきください。

(津田委員) 先ほどの議論で、評価する時にいつも悩ましいとこだと思うんですけど、例えばさっき話題になった3-2aで2.9になっていることは、良いと思っているのか、悪いと思っているのかで、これは限られたリソースの中で、すべての評価項目を満遍なく、全部満点を取ろうとして、結果としてこうなっているのか、それとも戦略的にリソース配分を変え集中投下するとやった結果ここは低くていいんだと思っているのか、によると思う。

だから、これ全部、満点取るのは無理だと思うんですね。

もしかしていいのは、毎年、今年はどういう戦略でこの項目を重視しますっていう目標、目標点数なのか、何か決めるとか、ある経営戦略みたいな

形で決めて、それに対してどうだろうかってやると、フェアな評価になると思うんですけど、ここをやるとどうしても、悪いから駄目なんだって見られることが、これから教育委員会とか出ていく時にそれを主張したいことかによると思うんですね。

我々が評価するときも、この2.9で、ここできてないじゃないか、ここを重視してくださいっていう主張を我々がしたいのか、あ、そうじゃなくてこのバランス結構いいじゃんと思っているのか、によるのではないかと、どう考えればいいですかね。その辺は状況をお伺いしないと、これでこういう形でいいのか、まさに戦略によるのか、どう考えているのか、答えがないかもしれません。

(事務局) 非常に重要なご指摘だと思います。実際我々の人的なリソースというのが非常に限られてる中で、内部的には、例えば今年度に関しては、プラネタリウムのリニューアルですとか、大きな事業があったので、やっぱりどうしてもそちらに時間も人も割かなければいけないということがあって、内部的にそういう何となく軽重をつけるというようなウェートを置くというようなこともあるんですけども、現実にはそれがこういう評価の中で、出せていない、表現できていないというのが現実だと思います。

今後、これまでの評価のやり方を、この協議会中で議論していただく中でも、最初の頃ちょっと評価項目が多くて、これを毎年評価するのは難しいよねっていうことで、年度毎に、その評価毎に重点施策的なものを決めていこうかという議論もあったんですけども、そうすると、結局その重点を置かなきゃいけないことをどうするのかっていう議論をしなくてははいけないということで、複層的になって、それはそれで非常に手順が複雑になってしまうということで、結果的に毎年同じ項目で評価をするということで、落ちついてきたんですね。

ただ、今、おっしゃられたようなご意見、なるほどなと思って伺っていて、今後、我々の中では、ここは今年はまだ3ぐらいでもいいかなというところが、実際には内部的にはあるので、それを表現していくのかどうかはちょっと、また今後考えなきゃいけないところだと思うんですけども、何らかの形で、今年、重点的に取り組むべきことっていうのを表現していくようなことが必要じゃないかなと考えています。

(浜田委員) 他市の事例で申し訳ないんですが、以前、私、埼玉県博物館の評価委員をやってました。埼玉県では戦略的にですね、この評価を使おうということで評価していました。その一つの例でいうと、例えば博物館専用の駐車場が、確か20台分ぐらいしかないんですね。県民が全く足りないというような要望が毎年出されていて、そのハードの整備みたいな評価が項目

に入っていて、やっぱり4年とか5年、ずっと評価が低いと、これがやはり改善されないということを県に物と言う資料になるということで、使っていたという例がありますので、ですから、何をどう使うか、それはもしかすると戦略的なことがあるというふうに思います。今回、これには該当しないかもしれませんが、一応参考に。

(岩野会長) 事務局にとっては、ちょっと大変ありがたいコメントかもしれません。

どういうふうに、これを使うか、だろうと思うんですね。他のところでは戦略的にそういうところを使ってる場合もあるという、必ずしも相模原市立博物館に該当するかどうかは別としても、少しでも、反映できるところが、一步でも二歩でも、去年より前進できるのであれば、そこを強調して、改善点として、ここがこう良くなりましたというようなところが、アピールできるところを書いていただいて、そういうものを増やしていただきたい。そんな願いです。

博物館のスタッフの皆さん大変忙しくて、本当に雑務に追われながら自分の調査研究をしなきゃいけない。重々わかっておりますし、その中で、本当によくやっているっていうのは本当に、今更言うことでもなく、わかっているところではあるのですが、私たちはもうまさに勝手なことを、皆さんいろんな意見を出すわけですけれども、それがよかれということでね、ぜひ受け取ってご検討いただきたい。そんなふうに、どうかよろしくお願いします。

(宍戸委員) 今回初めてなので、ただ私自身はこの評価で言いますと、この博物館では、行われているすべての展示、或いはすべての事業に私自身が参加をして、実際この目で見て感じて評価する。そういうふうに捉えてました。ですから、すべての事業に参加して、これを書かなきゃいけないのは厳しいと、一瞬思ったんですけど、今皆さんのご意見を拝聴しましたら、そうではないんだなと。でも、やはり実際に自分で経験しないと私自身は評価できないと思っているので、あとこの内部評価、自己評価っていうのは、ここにいらっしゃる5名の方の評価ということで捉えていいですか。

(事務局) この博物館を運営してる全員の職員の総意ですね。

(宍戸委員) 事務局こちら5名だけではなくってっていうことですね。

(事務局) はい。

(宍戸委員) ちょっとその辺もちょっとわからなかったものですから。

それから今、学校教育現場のところ、お話しされてましたけど、公民館が30以上ありますので、ぜひ地域の公民館で、いろんな事業がなされている、その辺のところも、多分、市民協働によるっていう、ここの意味がちょっと私が考えているものと全く違う、これ、市役所でやってる市民協

働というその意味ですから、そうではなく、独自の市民協働っていうふう
に捉えているのか、その協働の意味がちょっと私自身が今、捉え切れてい
ないというところで、この評価がすごく、私の中ではよくわからない部分
ですので、ちょっとその説明をお願いしたいという、それから、昨年度
ちょうど、田名小学校で、蚕を育てる、そういう取組をしていましたので、
ぜひそういうような情報がたくさんありますので、ぜひ博物館でも情報交
換まではいかなくても情報をちゃんと開示したり、或いはこちらで収集す
るか、どちらがどうするかわかりませんが、きちっと共有できるよ
うな形で、いろんなイベントを組まれていったらいいと感じましたので、
内部だけではなくて、もう少し、遠くの人たちに来ていただきたい。

今日もちょっと博物館は、あまり人の姿が見えないっていうか、きょう
は閉館ですかねって感じなんですけど、今日も開館してますよね。どなたに
もお会いしていないような、ちょっと寂しいなあと思って、ちょっと海外
の博物館なんかに行くと、もう、子供から大人まで、常に人でいっぱい
という、そういう経験をしていますので、ちょっと寂しいなっていうふうな思
いがありますのでぜひ、小学校だけじゃなく、地域の中の公民館活動なり、
地域の活動もちょっと取り入れたらいいのかなというふうに考えてます。

(事務局) 宍戸委員からのご質問で、市民協働のことなんですけれども、これに関
しては、博物館では、狭い意味としては、博物館は生涯学習施設ですので、
この中でいろいろな専門的な活動している市民の方がいらっしゃいます。
その分野ごとに、民俗調査会だとか、植物調査会だとか、そういう各専門
分野の活動してる市民グループプラス、戸塚委員も加わられていた市民学
員のそういう市民が、博物館を拠点に活動している、そういう市民との協
働を指します。

そのほかにも、広い意味の協働でいうと、いろんな多様な団体ですとか
市民とかと、コラボレーションしながらやるような活動に関しても協働と
いうふうに、言っています。

それから公民館等の活動に関しては、学芸員が公民館に行って、講師を
依頼されて務めるようなことも、年間に何十本っていうふうな数でやって
おりますので、その辺に関しましては、詳しく実は今日新しい委員にはお
配りしていないのですが、年報がございまして、こちらに学芸員がどこに
行って、講師派遣を受けているかとか、どういう協働を行っているかとい
うのは一覧になってますので、良かったらこちらをご覧くださいければ詳し
くわかると思います。帰りがけにでもすみません、お配りできるかと思
いますが、よろしくお願いします。

(岩野会長) 今、この評価書の問題いろいろ出たと思うんですが、またいずれ夏ぐら

いですかね、実際に皆さん方の方に、博物館の方から、書いてくださいという、そういう話が来るかと思うんですけど、その時にまたわからないところとか、内容説明とかをできれば、お話しいただければと思うのですが、今回は初めて参加されるという方も、いらっしゃると思いますので、わからないってことがあると思うので、そういうことで、ご理解いただければと思います。それではもう一つ、最後の議題になりますけど、議題（４）常設展示室のリニューアル構想案を事務局の方から説明をお願いします。

（４）常設展示室リニューアルの構想案について

事務局より常設展示室リニューアルに至る経過及び構想案について説明を行った。

（岩野会長）ただいま、常設展示のリニューアルについて、現状、課題、今後の取組についてご説明いただいたと思いますが、最初の天井の件というのは、これは構造を直すっていうことも含めてやるということなんですか。

（事務局）はい。具体的に言うと格子状になったような網のようなものが乗っかってる状態。それはいろんなメンテナンスの面も含めて、当時はそういうものがやりやすいつてことで、多分、そういうことになったと思うんですが、要するに、大きな地震が来るとそれが崩れ落ちてしまうという可能性があるんですね。そういう危険を孕んだもので、それを作り変えなきゃいけない。建物そのもののリニューアルも一緒に、含めてやってしまうということ。建物の内側の部分という躯体の内側になりますけど。

（岩野会長）そういう事情もあって、この年度にやるということですね。そういう説明は初めてだったので。ただいまの説明について何か皆さんの方から、忌憚のないご意見をお願いします。

（大貫委員）非常に期待してるんですよ。津久井４町との合併と最後の広域交流拠点都市に相応しいというね、実は博物館を作った時には、歴史的、文化的に見ると、どうしても多摩地方、或いは津久井、或いは愛甲、これらを密接に結びつけないと相模原の歴史像、文化が出なかった。それを進めようとしたんですが、地方自治体の地方自治法の縛りがあって、やっぱり相模原、当時の旧相模原ね、そこを超えることができなかった。

でも皆さんご承知のとおり、例えば、旧相模原であっても、境川と相模川、この二つの川に挟まれていて、この二つの流域の人たちがこの相模原を作ってきたんだ、だけど境川の両側には町田市相川、相模原市相川、町田市小山、相模原市小山、或いは、上鶴間、町田にも鶴間、これらはもともと同一文化圏で、それが江戸時代に一応国境が定められて、明治になって、明治の時、一時、三多摩は神奈川県だったけど、そのあとで東京に割譲されちゃう。でも同じ名字を持ってる人もいるし、同じお祭りも持っていて、歴史的にも全

く同じ、これがきちんと叙述できていない。今の展示はね。

相模川流域も全く同じこと。当麻だとか、磯部ってのは、対岸の、いわゆる依知ですね、というところと、密接な関係があって、密接な文化圏。だから、田名、大島においても葉山島なんか全く同じ、小倉も。

津久井っていうのも、津久井から相模野に開拓に入っている人もたくさんいるんですね、それが相模原を作っているという実情がある。だけど、それらを触れられなかった。相模原にも津久井衆がいるんだけど、その津久井衆というのは津久井城を拠点とする武士集団で、これについても叙述できなかった。相模原は古代に、相原、小山、小倉、田名というふうに、多摩の横山党が南下してくるんですけど、これらについても、何ら叙述ができなかった。

さらに、例えば考古学に進んでいけば、古墳時代、或いは弥生、それからそのさらに縄文とか、これらを当然のことながら川で領域定められているわけじゃないんですから、甲斐国の甲斐型の土器も相模原から出ている、武蔵国の武蔵型の土器も出てくる。これが一つのそういう文化、非常にこれが相模原の特徴なんです。相模という国と、武蔵という国と、甲斐という国の3つの国の文化が、同じ神奈川県の中でも、相模原では、この三つの土器が出てきて、どういう交流があって、どういう文化を育んだのか、この叙述ができなかった。これはぜひやってもらい。

それから非常にタイトなんで、できれば、例えば、8年度の博物館の事業でね、動物もそうですよね。国の特別天然記念物なんか旧の相模原にはいなかったんで、日本カモシカなんかいないわけだから、そういうことを含めて、とにかく事業として、特別展や企画展を細切れにしてでもいいから、今この相模原という、この地域を文化的、例えば考古学でもいいし、歴史であってもいい、民俗でもいい、地質もちろんそうですよね、相模原の地質っていうのが、山梨の方だって、東京の方だって当然関連があって、この相模原の地質ってのは、実像はそれをきちんとやっていかないと把握できなかったから、シンポジウムでもいいし、研究会でもいいから、ぜひ博物館でね、8年度にそういうものをどんどんやって欲しい。できれば9年、10年とかね、市民を交えてね、どういうものがあるのかっていう、その分野ごとでもいいし、分野を横断した、或いは縦断したものでもいいし、民俗と地質が一緒になったものでもいい、そういうものを事業化して進めていかないと、これはもう基本設計や実施設計には間に合わない。

ただ何となく、ここでこう見てると歴史のところでは津久井城が入ったからいいや、甲州道中が入ったからいいや。尾崎弔堂が入ったからいいや、そういう問題じゃない。やっぱりそういった問題をきちんとね、博物館が主体と

なって、学芸員が主体となって、もう30年も前の学説でやっていますから、今のもう考え方とは全く違いますよね、戦国時代なんかも、かつての到達と、今の到達は全く違いますから。それは江戸時代もそうですし、もういろんな時代がそういうふうになんか変わってきた。そういうのをぜひやっていただきたい。8年度、9年度、そういう事業を多彩にやっていく、できればそれに市民を巻き込んで、そういうような研究会、見学会、シンポジウムでね、できればシンポジウムなんかをね、ぜひ学者、研究者を交えてね、やっていただきたいという要望を申し上げたい。以上です。

(島崎委員) 相模原市では小学校3年生が、SDGs ツアー、いわゆる市内めぐりの形で、市がバスを借り上げて、大体70校ぐらいの学校が行ってます。

SDGs で博物館はほとんど来てないですよ。なんで入れないかっていうと、4年生でスケートの教室と、合わせてここに来てプラネタリウムとか展示を見るので、結局は展示だけになってしまうっていうことと、4年生で被ってしまうので、選んでないんですけど、本当に展示と関連させて、3年生の社会科の学習内容に特化したような学習プログラムとかがあると、かなり選択肢として魅力的なのかなと、田名のふれあい科学館は、相模原の自然というところで、どうしても担任としては社会科としては、ちょっと薄いなだけで、さらっと回って終わっちゃうので。

1箇所行くと先ほど言った津久井の方に行くと、もう本当に一日の日程が、かなり、こことここしか見れないみたいな感じになるので、先ほど言われた津久井も入ってきてるので、その辺を発信すると宮ヶ瀬とかあっちの津久井の方にもいかなくても、西の方の学習ができるという話に、ぜひ工夫をしていただけると嬉しいなと思います。

(岩野会長) 建設的、具体的な、それぞれ意見が上がっているんで、ぜひこれはちょっと書き留めていただいて、またご検討をお願いします。

(佐藤委員) 大きさの話とか、過去の経緯とか、変わってきたところっていうのは踏まえるっていうことの重要性は、本当に私も不勉強で、とても大事でありますし、現場の小学校の校長先生の話なども。

ちょっと私も去年聞いていなかったその、地震の時の構造物の不適合っていう話はちょっと気になっていて、予算がついてますよね。この5ページ、全体の9割以上が展示工事費になってるんですけど、7億6000万ですかね。お金はあったに越したことはないんで、実際に例えば、令和8年、9年と具体的な設計をしていって、そこで多分いろんな意見がきっと、いろんな方から出てくると思うんですけど、これはお金がないからできませんと、これを言いたいんだけどこれはできないから、こっちにせざるをえないみたいな話にどうしてもなってしまうところで、構想もしくは

アイデアがあっても、予算がないということがやっぱり一番厳しいので、今の段階でわかればなんですけど、その躯体の部分、天井部分ですかね、その工事費はざっと今幾らぐらいかかって、実際の展示に回せるような予算、この内訳ですかね。ほぼこっちの天井部分に行ってしまう予算で、実際は展示にかけられる予算はほとんど無くて、創意工夫しかできないということになってしまうのは余りにも寂しいので、現実的な話として、予算措置のざっとの内訳、どんな感じなんでしょう。

(事務局) 5ページに書かれている概算予算なんですけれど、これは純粹に展示だけです。天井の方は入っていません。

(佐藤委員) 天井は別予算。

(事務局) 別予算です。天井は来年度、展示の基本設計と同時並行で、天井の方の実施設計をやっていきますので、その展示の内容を予見として与えて、天井の方の実際の工事費が出てくるっていう形です。

(佐藤委員) 館側からすると、7億6000万っていうの結構いろんなことができるっていう見込みがある感じなんですか。いや、少ないなっていうところですか。

(事務局) 0から作り上げる金額ではちょっとないのかなと、やはりリニューアルというところでの金額になるのかなというところではあります。とはいえリニューアル感は、しっかり出さなきゃいけないというところでもありますので、その辺はしっかり踏まえて、リニューアル感が出るようにしていきたいと思います。

(佐藤委員) わかりました。

(大谷委員) 私は、結婚する前までは津久井に住んでいたんで、大貫委員の話を聞いて、すごいワクワクしながら聞いてたんですけども、やっぱり津久井に住んでいて、津久井城の発掘の方にもちょっと携わらせていただいたこともあるんですけども、博物館のリニューアルで津久井のそういう話、展示がされるっていうのはすごく嬉しいんですけど、やっぱり津久井ってすごく広いので、多分展示するにはなかなか限りがあるのかなって、そこを工面されるのかな、なんていうことを思っているんですけども、ただ旧津久井郡内には、ふじやだったりとか罌堂記念館もあるので、そちらに誘導できるような展示なんかもしていただけると、そこも含めて興味を持って、いろんな方が訪れるような、そういうチャンスももらえるのかなと思って、あと津久井城もそうですよね。あるといいのかなぁと思ってお話を聞いていました。頑張ってください。

(高原委員) さっきもお話したように、天文大好きで、先生と一緒に同席しても大変光栄なんですけど、素晴らしい天文台があってね、いいんですけども、やっ

ぱり公民館とか、小学校から観望会依頼されることがあるわけですね、天文研究室の方がね。ところがその、いつも置いてあるペンタックスの天体望遠鏡ですね、学校に運ぶのとても大変なんですね。私はいつも、私も観望会をお手伝いするんですけども、いつも思うんですけど、移動という問題ですね、もし設置できるんだったら車にも望遠鏡をセットしてそのまま移動すれば校庭の真ん中で、すぐ観望できるようなね、そういうシステムがあると、いろんな小学校や公民館からの依頼に答えやすいんじゃないかなと。今はペンタックスの10センチをですね、架台と一緒に運ぶのはものすごい重さなんで、ですからやっぱり天体観測を、ここでもできますけども、やはり相模原は細長い地域で、できたらそういう移動天文台を、今回の予算でできるかどうかと思うんですけど、設置できるような、そういうことができるよね、非常にその観望する機会をたくさんの方に提供できる。私は前からそれを夢に思ってたものですから、なんかいろんな方が要望されていたんで、私は天文大好き人間で、ぜひそれもね、ちょっとここで意見として述べさせていただきたいと思いました。以上です。

(浜田委員) 全然違う観点での意見でもよろしいですか。まず予算についてなんですが、現在の30年前の建設工事費が12億3000万円でした。あれから30年の金額ですので、現在のようなレベルの展示は不可能であると考えて欲しいと。

先ほどちょっとご説明いただきましたが、前回の私が意見を言ったと思うんですが、前回からアップデートされた計画書というふうに、お話が出ましたが、具体的にどこをアップデートとしたのかというのをちょっと確認したいということとそれから、やはり基本構想の段階で、多分、今の基本テーマは全面変更される必要があると思います。それに基づいて各展示ができると思いますので、まずどういう方向性でテーマを作っていくのか、その基本テーマを基本構想の段階で考える必要があるのかなと考えてます。

今の展示が5ブロックからできてますが、今回の更新を見ると4ブロックに変えるので、ですからその躯体構造も考えながら、その4ブロックをどう配分するか。それを考えて、テーマを考える必要があるのかなと思いますので、その辺をちょっと頭に入れて、計画をもうちょっと詰めていくといいかなというふうに思います。いろいろ言いたいことはありますが、以上でございます。

(戸塚委員) まず、リニューアル事業計画の話は、今日だけなんですか。今日だけで、もう次から違うテーマになるんですか、私はいっぱいあるんですよ。言いたいことが。いわゆるリニューアル計画。これで終わりなんですか4時で。

もう次はまた違うテーマになるんですか。いやですから今日はこれで終わりだとすると、このテーマに対しては、言う時間がないということですか。

(事務局) 今日見ていただいて初めて見ていただいたと思うので、申し訳ないんですけど見ていただきまして、メールの方で、ご意見とかございましたら、ぜひ言っていただければ、そちらの方も参考にさせていただきたいと思います。いつまでにというのを入れて、メールの方送らせていただきますので、そちらの方で答えをいただければと思います。

(戸塚委員) 一つ聞いておきたいんですけどね、常設展のところは何かやるんですけども、企画展示場っていうのは手を入れないんですか。

(事務局) これはあくまでも常設展示室のリニューアルで、特別展示室、ポケモン天文台をやっていたあのスペースに関しては基本的には変わりません。

(戸塚委員) 学習資料展のところですか。

(事務局) はい。ただ、今の天井の問題と別に、相模原市が全体でLED化の計画があって、そのLED化の工事に関しては多分同じような年度で進むと思うんですけども、特段それ以外の変更というのは、特別展示室につきましてはないです。

(岩野委員) 今日の会議については間もなく終了ということにはなるわけですが、おそらくまだいろんな意見とか、足りないという、ことがあるかと思います。そういうものについてはメールでも結構ですから、事務局の方に伝えていただければと思います。

(大貫委員) ちょっと確認でいいですか。諮問機関はこれしかないよね。当時博物館を作ったときは、展示専門委員会だとか、そういう委員会でやって、今はこれしかない。新たに展示の委員会を作る予定は。

(事務局) ありません。

(大貫委員) ということは基本構想なり、基本設計が出るたびに、今こういう形で進んでますっていう説明をいただいて、その都度、我々が意見を言えるっていうことだね。

(事務局) そういうことになります。

(戸塚委員) 今後いろいろ出てからでは遅いんですよ。まだ、その基本のところだね、言いたいこといっぱいあるんです。

(事務局) メールなどでもご意見をいただければと思います。今後もですね、これはあくまでも構想の段階なんですけれども、基本設計が進んでいきますので、またその中でですね、こちらからご報告申し上げますので、その段階でまたご意見をいただくことがあると思います。これで終わりということではないということで、ご承知おきいただければなというふうに思いますので、今後ともご意見いろいろといただければと思います。

先ほど浜田委員の方からどこが変わったのかっていうようなところで、ご指摘がありました。例えば前回の協議会の中では、やはり展示は実物を中心に構成するべきだというようなご意見もあったりして、その辺はこの3ページの展示手法か、3の(3)のところで、展示は実物資料を中心としていくというような文言を入れさせていただいたりしております。それから、一番大きく変わってるのはこのゾーン構成のところですね、前はかなり現状の展示を踏襲したような形のゾーン図をつけさせていただいたんですが、協議会の中で、これだとリニューアル感が全く出ないんじゃないかと、というようなご意見もありましたので、そこは少し概念図的なものに今回差し替えました。具体的な展示室の図を付けるのではなくて、あくまでもここ枠の中で全部を再構成するというような形でのお示しにさせていただいたというところです。

あと(5)の展示構成例の所もですね、前回お示しした内容で4ページのところです、かなり具体的に提示の内容を書かさせていただいたようなところがあったんですけども、ここはちょっと一旦ですね、少し大枠な形にさせていただきました。その部分はやはり今後の基本設計とか、その部分で詰めていくっていうところで、ここでは、あくまでも大枠でのお示しという形で、リニューアル感も出すという意味では、まだこれからいろいろと考えさせていただきたいというところで、こういう形でお示しさせていただきました。これらが一番大きく変わったところです。

(岩野会長) よろしいですか。あと他に何かありますか。

(宋戸委員) ちょっと確認したいんですが、はやぶさとかあいうものは常設展に置くことは可能なんですか。ワシントンDCのスミソニアン博物館でそういうのを常設展示していたので。そういうのができると思って。

(津田委員) できると思うし、うまく役割分担というか、両方この区域として、往来していただけるようになるといいかなと。その意味では、積極的に。

(岩野会長) 素朴な単純な意見っていうのは構わないと思います。そういう中で、どこまで反映して、実現できるかってのはまた次の問題、そういう意見もある。ましてそういうのがあれば一つの目玉になる。ありがとうございます。他には何かございますでしょうか。

あと、私からもちょっと再度一つだけ要望っていうのかな、博物館ってのは、生きたものでないものの展示になることは、必然的にわかっているのですが、かたや南のほうにちょっと行くと、田名の方には、ふれあい科学館ですね、あそこは比較的、魚の展示とかが多いんですけども、生きたものの展示で、場合によっては触れたりする。魚も触れたりすることができわけですけど、そうすると、例えばうちの孫なんかと両方連れて

くるとですね、反応は圧倒的にやはりああいう、生きたものの方に行ってしまう。でも正直あるんですね。

私もいろいろな他の博物館とかいろいろ行ってみてくるんですけど、もう少し融合した形ができないのかなという思いが正直あります。ただ死んだ物のたとえ鉱物であれ、生物標本であれ、そこにあるのが生きたような形で、少しでも近づけないか。例えば蚕なんか季節になったらそういうものも置けるという余地はあるかもしれないけれど、じゃあ生きていないときはどうするんだとか、そういうバッファゾーンみたいな部分がつくれないのかという思いが、全部のところで無理なら、1ヶ所でそういう場所を作ってそこで融合できるようなね、そこでいろんなもの、生きたものの展示だとか、そういうものができなかつたら、そこに映像でそういうものを実際に見てもらって、いろんなそういうような融合的に取り組むようなものができる、子供さんへの反応っていうのが違うのかなという思いがあります。

この前行った山梨県立科学館だったかな、あそこの展示ってのはとてもユニーク、私はむしろ、皆さん方の誰か代表で研修としてああいうものを勉強していただきたいという思いもその時受けたんですね、実際に後でホームページ等で見ていただくといいと思うんですけども、科学というものを、いろいろな博物館が関わる動植物も含めてなんですけど、例えば引き出しを開けて、何かがあるワクワク感があるんですね、そこにどういうものがあるってそれぞれ簡単な説明がある、それでそれに触れる。昆虫標本もあれば、石もあるし、いろいろなものがある。あと、窓開けたりできたり、いろいろなここを覗くと何があるんだろうっていう、こういう楽しみがある。ただ置いとくので見といてくださいっていうスタンスとはちょっと一味違う、いろいろな勉強になるところがある。

そういうような他を知る、そういう研修も場合によっては、私は必要なことじゃないかなと思うんですね。私自身大学に行ったときは博物館もやっぱり関わっていて他の大学の博物館いろいろありました。新しいタイプの。うちの大学で博物館作る時にですね、やっぱりいろんな良い勉強になります。やっぱり他を勉強するっていうことはとても得るところが大きいです。すべては、実現できなくてもやはり、それを少しでも反映させて、毎度同じようなことを言ってますけども、そのためにはそういう職員の研修ということも考えて、今言った山梨県立科学、そういったところへ行かれることを私は、お勧めしたい。予算がなくてできませんでしたなら終わりなんですけど、やっぱり他を見ることもとても大事なことです。ただ私たちの意見を聞くっていうこともいいことではありますけれども、自分の目で他

を見ていただくことも、もっと勉強になる。以上です。他に何かございますでしょうか。

(大谷委員) Xで、福井の博物館だったかな、バレンタインデーに銅鏡のチョコレートを作ろうっていう、そういう企画があって、めちゃくちゃ面白そうだなと思ったんですけども、ちょっと距離が遠すぎて無理だなと思ったんですけど、何かそういう食べ物とかそういうものを使って何か、例えば昆虫チョコを作ろうとか、ちょっと親は嫌だなと思うかもしれないけど、子供だったら興味を持ってくれたり、ちょうど蚕の勉強してる子たちが、蚕って、実際こうなんだよねなんて話をしてできるんじゃないかなと。そうすると親子でまた博物館に足を運んでみようかななんて、お話を聞くだけじゃなくて、実際に体験しながら、勉強ができると思います。

(岩野会長) 今日はまだ最後ってわけじゃ決してありません。むしろ最初ですので、それぞれのいろんな意見がまだまだあると思います。先ほども申し上げたとおり、そういう意見がありましたら、遠慮なくメールで、博物館側にお伝えいただければ、と思います。

(宋戸委員) 外国の方がこちらの見学に来るとか、来月予定しておりますので、日本語を習ってる外国の方に、博物館を見学してもらおうと、今企画して、来月、こちらを見学する予定ですので、その時はまたよろしくお願いします。外国籍の方が増えておりますので、そのあたりも、考えていただければ、ありがたいかなと。

(岩野会長) それに関連して展示なんかも日本語だけでなく、いろいろな言語のパネルなんか、そうですね。以前、確か意見として出ささせていただきましたが、どこまで実現してるかは、別として、いろんな意味では、そういうものを作りつつ、いい形になっているのではないかと思います。ぜひ外国の方も、積極的に来るように、お伝えいただければと思います。

他に何か。特段なければ議事を終了したいと思います。あとその他事務局の方から何か連絡事項等ございますでしょうか。

(事務局) 特段こちらからはございません。

(岩野会長) あとの委員の皆様から何か連絡事項ございますか。なければ、終了とさせていただきますので、進行を事務局の方に、お返ししたいと思います。

(事務局) では、以上をもちまして本日の日程の方は終了となります。これをもちまして、本日の博物館協議会は閉会にいたしたいと思います。どうもありがとうございました。

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	島崎 貞良	市立陽光台小学校校長		出席
2	佐藤 和彦	県立相模原弥栄高等学校校長		出席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会会長		出席
4	大谷 春枝	市P T A連絡協議会副会長	副会長	出席
5	宍戸 佳子	市女性学習グループ連絡協議会会計		出席
6	岩野 秀俊	元 日本大学生物資源科学部教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学リベラルアーツ学群教授		出席
8	津田 雄一	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 副所長・教授		出席
9	戸塚 芳男	公募委員		出席
1 0	高原 ななゑ	公募委員		出席